

「ベトナム国家大学ハノイ校サマースクール参加報告書」

京都大学理学部 1 年 杉津萌

本プログラムの内容はベトナム国家大学ハノイ校の外国語大学と人文社会科大学にそれぞれ1週間ずつ通い、そこで主に日本語を学んでいる学生たちとの交流を通じてベトナムの大学における日本語教育事情やベトナム文化などを学んでいくというものである。具体的な内容と意見を以下に述べる。

まず外国語大学での授業参加については、主に1～3年の日本語会話の授業に我々日本人学生も参加し、会話練習や質問などを生徒達と日本語で行うというかたちであった。授業内容については文法の説明よりも日本語の日常かつ実践的な会話の習得が重視されており、さらに講師達は授業内容の説明を日本語で行うことも多い。このように日本語に触れる機会が多いこともあってか、日本語会話に長けた生徒の割合はかなり高く、多言語の会話表現の習得においての言語に触れる機会の多さの重要性を実感した。人文社会科大学では大学教員によるベトナム文化や法律、社会問題についての授業と、日本語授業の聴講が行われた。専門的で難しい部分もあったものの、ベトナムにおける人称の複雑な変化の仕方や中秋節の祝い方、模倣商品に関する問題など日本とは異なる文化や問題を詳しく学ぶことができ、文化の違いの一端を認識することのできた貴重な体験であった。また大学生活以外にも、伝統的な家屋の存在するダウンラム村や世界遺産であるチャンアンの訪問を通じて、ベトナムの風土に合わせて人々が作り上げてきた建築構造や、長い時間をかけて形成されたベトナム固有の美しい自然文化に触れることが出来た。

最も印象的だったのは、ベトナム人学生達の手厚いサポートである。我々がベトナムに来た日から帰る日まで、道路に溢れかえるバイクから我々の身を守ってくれたり、休日の観光の際も朝から晩まで一緒に行動してくれたり本当に親切にしてくれた。また彼女たちは日本語学習に非常に熱心であり、日々新たなことを学ぼうとする学習意欲の高さを感じる事が出来、非常に良い刺激を受けることが出来た。彼女達なしにはこのプログラムを安全にかつ充実したものとして終えることは不可能だっただろう。

2週間と短い期間であったが、ベトナムの文化・教育だけでなく、ベトナム人の暖かく親切な人柄に触れる機会など、プログラムに参加し、実際にベトナムに行かなければ決して得られなかったであろう多くの貴重な経験をすることのできた非常に濃い2週間であった。今後も専門科目だけでなく、今回のように他国の教育や文化といった多様な分野に興味を抱き、様々な活動やプログラムに参加していきたいと思った。